

前号に書きましたが、茨城の友人の作ったりんごが「こうのとり」で宇宙ステーションに届けられたと。その写真が送られてきた。ニュートンや宮沢賢治が見たらどんな言葉を発するでしょうか。様々な検査をクリアして選ばれたと思いますが、彼にとっては大変な驚きと喜びだったと察します。

彼とはボクだった頃、山形県は神町りんご研究所でいっしょになった同窓生というところですよ。やや不良気味だった彼と、主人がサイドボードに並べていたウイスキー類のいくつかから、白い陶器に入ったナポレオンを選び二人で飲んでしまった。いいよとおっしゃった主人の顔を今でも思い出すが、1ドル360円の時代でしたから価値もわからないボクたちにはもったいないときっと思われたでしょう。その彼はいつからかピツタリアアルコールを寄せ付けなくなった。地域の役職を立派にこなしりんご栽培のリーダーになっていた。万年不良の私とは大きなちがいだ。茨城は大子町の奥久慈りんご園という、都市に近いことから観光農園的なことをやっています。お近くの方は行って見て下さい。

トルコから一ヶ月ぶりに娘たちが帰ってきた。無事だったのが何よりのみやげだったが、私にとってはほんとうに嬉しいみやげがあった。トルコのりんごの主要品種である「アマシア」の枝を持ってきてくれたのだ。写真では見ているが実物は知らない。だいぶ前の通信にトルコでの農薬使用状況を書いたが、日本のそれよりも3割ぐらいで済むようだ。3月に入ったらこの枝を大きな樹に接木してみるが、その生育過程で病気(カビ)に強いかどうか確認できる。2年後には花も咲くと思うが、もし、日本の気象で良しとするなら、グラニースミスと交配してみようかといういろいろ考えると、もう少ししかない先も楽しみになる。

りんごの原種といわれるものは世界のいたるところの北緯45度線上で発見されたが、日本では北海道で自生していたものが「エゾノコリンゴ」と命名された。それらが自然交雑とか人工交配によって現在のりんごに至っているのだが、日本名の国光とか紅玉は北海道開拓使によって、アメリカから官費で明治の初めに持ち込まれた。150年の歴史は様々な人たちによる試行錯誤で今のりんごがあるわけですが、私もささやかながらそんな宇宙船に乗り込みたいのです。

育種したりんごに何故アイヌ語の名を付けるのですかと問われた。ひびきがいいじゃないですかと笑って答える。

松浦武四郎が何年もかけて蝦夷地を歩いた。そこでアイヌの人たちに対する和人の悪徳非道な行為で奴隷あつかいする姿を目の当たりにした。探究心や愛情は役人としてはめずらしく深いものであったが、時の流れの中で吉田松陰等と共に皇国史観の輩であった。松浦藩や幕府の植民地であった蝦夷地は北海道と名付けられた。名命者は松浦武四郎だ。他の地名もアイヌ語を漢字に変えたのだが、自然と共にあったアイヌの人たちの思いがそこから読みとれるであろうか。

北大を中心にした御用学者たちは彼等の墓を強制的に掘り返し、そのルーツの研究材料にした。氏名も和名に変えさせ同化を強制した。権力者の常套手段であるが天皇陵墓は掘らせない。そのルーツがわかっているからだろうか。

ボクの頃、上野でのある集會に参加した。アイヌ・在日・沖縄・部落の参加者が何人かいた。日頃の思いが怒りとなって爆発して、ヌンチャクとチャランケでぶつかってしまった。集會は続けられなくなった。ボクは初めて差別される側の涙を知ったのだった。

りんごの歴史をたどれば、その対応は技術でどうにでもなるから仲々自然栽培は普及しない。経済戦争が続く限りそれは無理かもしれない。人間はどこからやってきたのかの歴史を探究すればもっともっとやさしくなれるのではないか。やはりこれも無理か。宇宙倫理は果たしてあるのか。軍事利用までいってしまうのか。核兵器や原発で世の終末となるか。自然災害を引き寄せるものは何か。できればやさしい自然の中で静かに暮らしたいものですよね。

幸子さんが凍て付いた雪に滑って転び右手首を骨折してしまった。彼女には病院でゆっくり養生してもらえばいいが、さて私はどうしよう。外仕事ばかりで中の仕事はほとんどしない男ですから。来客に、奥さんのありがたみが解かったでしょうなどと言われるから、痩せないようにちゃんとご飯を食べ、掃除機を何度も使い、洗濯もしと奮闘努力のみえをはっているこのごろです。

“よろずや本舗”さんが回収してきたプロ使用のアンプを近くのマニアックな電気屋さんへ運び込んでまともなステレオと交換してもらった。20年ぶりぐらいでレコードが使えるのだ。ウイスキーを飲み過ぎないように、懐かしい音に酔いしれて眠りにつこう。

りんご、すべて終了しました。ありがとうございました。他人なみに生産量が少くて、他人様よりジュース用のりんごが多くて、皆さんの要望に答えられなかったことをお詫びいたします。ジュースはいっぱいできておりますのでお求め下さい

日々、りんごの樹の剪定作業にうちこんでいます。寒さの中大変ですが楽しい仕事です。そう追われることもないですから、こちら安曇野へお来し下さい。お待ちしております。

